

# マネーplus+

## お金とくらしの 情報通信

2023.FEB  
vol.6

JAから、相続や資産形成・資産運用などに役立つ  
基礎知識やトピックスをお届けします。

Column  
耳寄り情報

Message

大きなお金を準備するには、それなりに  
時間がかかります。「老後の資金が心配」なんて  
漠然と思っているだけでは、  
なかなかお金は貯まらないもの。  
iDeCoは、自分が拠出した掛け金を、  
自分で運用して資産を形成する年金制度で、  
無理なく老後資金の準備が  
はじめられます。



©よりぞう

資産運用の専門家がお届けします/

fpフェアリンク株  
代表取締役

白浜 仁子  
Shirahama Tomoko

## 将来の不安に備えるiDeCoとはどんな制度？

### iDeCoとは？

iDeCoは、個人型確定拠出年金の愛称で、老後資金を準備するための私的年金制度です。預貯金や保険、投資信託などのラインナップから好きなものに積み立て、原則60歳以降75歳までの間に受け取りを開始します。

20歳以上60歳（一定の場合65歳）未満のほぼすべての人が対象ですが、すでに農業者年金を利用している人は加入できません。月の掛け金は最低5,000円からで、上限額は、自営業者6万8,000円、企業年金がある会社の会社員や専業主婦は月2万3,000円、企業年金がない会社の会社員や公務員は月1万2,000円などと立場によって異なります。年に1回掛け金の変更が可能なので、マイホーム資金を貯めたいときや教育資金が掛かるときは減額や掛け金をお休みするなど、ライフプランに合わせて積み立てるとよいでしょう。

### iDeCoの節税効果

iDeCoの魅力は、①掛け金がすべて所得控除される、②運用で得た利益等が非課税、③受け取り時に控除を受けられる、という3つの場面で税制優遇される点です。

中でも注目されるのは、「①掛け金がすべて所得控除される」という部分です。所得控除とは、税金の計算時に所得から差し引くことができる控除のことをいいます。つまり、iDeCoを始めると節税につながります。例えば、年収400万円の人が毎月2万円ずつ積み立てると、節

税額は年間3万6,000円。収入が多い人ほど所得税率が上がるため効果は更に高くなります。低金利に加えインフレが続く今、iDeCoで毎年節税ができ、手元資金が増えるのはうれしいものです。

### iDeCoを始めるべき人

iDeCoは、すべての現役世代におススメしたい制度です。老後に不安を感じている人、節税をしたい人はもちろん、貯蓄が苦手な人も検討するとよいでしょう。もしかしたら、原則60歳まで受け取りができないことから、加入を躊躇する人がいるかもしれません。しかし、だからこそ着実に老後資金を準備できると言い換えることもできます。

なお、所得がない専業主婦は、前述①の恩恵は受けられませんが、iDeCoには「②運用で得た利益等が非課税」というメリットもあるため、非課税で運用をしたい場合も有用です。

■ 毎月の掛け金を2万円とした場合、1年あたりの節税額は？（概算）

年収	所得税	住民税（注）	合計
400万円の人	▶ 1万2,000円	▶ 2万4,000円	＝ 3万6,000円
600万円の人	▶ 2万4,000円	▶ 2万4,000円	＝ 4万8,000円
800万円の人	▶ 4万8,000円	▶ 2万4,000円	＝ 7万2,000円

（注）住民税（所得割）の税率10%

\*実際の節税額は、家族構成などその他の控除等により異なる場合があります。

ざっくりこのくらいの  
金額が節税できる！